

花と緑の銀行だより

158号 2006.1



増山杉／南砺市

目次

- | | | | |
|-------------------------------|-----|---------------------------|----|
| ・新年のあいさつ | 2 | ・楽しさと魅力ある花壇づくりをめざして | 8 |
| ・黒部市の花緑推進について | 3 | ・ナラ類の集団枯損被害の紹介 | 9 |
| ・花づくりコーナー | 4 | ・この人あり | 10 |
| ・とやまの花壇苗・鉢花 | 5 | ・草花の害虫とその防除法 | 10 |
| ・各種コンクール入賞作品(写真コーナー)
..... | 6~7 | ・情報コーナー | 11 |



新年のあいさつ

財団法人花と緑の銀行 理事長 石井隆一

明けましておめでとうございます。

輝かしい平成18年の初春を皆様とともに寿ぎたいと思います。

さて、財団法人花と緑の銀行は、昭和48年の設立以来、花と緑の普及啓発や緑花指導者・グループの育成、花壇づくりの推進など、花と緑に包まれた美しい県土づくりに積極的に取り組んでいます。

おかげをもちまして、県内における緑花活動の輪は大きく広がり、県内各地の公園、学校、公共施設、道路、広場などが四季折々の美しい花と緑で彩られていることは、誠に喜ばしい限りです。

これもひとえに、県内各地域で緑花推進に活動いただいている地方銀行頭取やグリーンキーパーの皆様、そして県民の皆様方の並々ならぬご支援、ご尽力の賜であり、心から敬意を表し、感謝申し上げます。

さて、富山県は、立山連峰等の山脈に囲まれ、そこから流れ出る多くの河川は、清らかで豊富な水を平野にもたらし、本州随一の植生自然度を維持するなど、豊かな自然に恵まれています。

しかしながら、近年、都市化の進行などにより、身近な自然が失われつつあります。

また、21世紀は、「環境の世紀」といわれていますが、気候の温暖化、森林の破壊と砂漠化の進行、有害物質の蓄積など、地球規模での環境の悪化が懸念されています。

このため、県では、4次にわたりグリーンプランを策定し、県民の皆様とともに県土の緑花推進に取り組んできました。特に、平成13

年からは、「花と緑の新世紀プラン」のもと、「花と緑といのちが輝く富山」を目指し、各種施策を計画的に推進しています。さらに富山県景観条例に基づく「景観づくり重点地域」の指定などにより、豊かな自然の保全や美しい景観の創出に努めています。

花と緑の銀行としましても、これらの県の目標に合わせ、「花と緑をはぐくむ」、「花と緑にふれあう」、「花と緑をすすめる」の3つの推進目標を掲げ、苗木や種苗の配布、緑花指導者の育成、花壇コンクールの実施など各種事業を積極的に展開しているところです。

うるおいと安らぎに満ちたふるさと富山を創造していくためには、花と緑の銀行の活動はもとより、地域における一人ひとりの緑花への積極的な参加と取組みが不可欠であり、皆様方の一層のご支援、ご尽力をお願い申し上げます。

おわりに、皆様方の今後ますますのご健康、ご活躍、ご多幸を心からお祈り申しあげまして、新年のごあいさつといたします。



黒部市における緑花推進について

黒部市農林水産課主任 高本美智子

〈清流黒部川・名水のまち〉

3千メートル級の山々から富山湾に流れ込む黒部川。その豊かな流れが作り出した黒部川扇状地の左岸に人口約3万7千人のまち「黒部市」があります。昔は黒部川は四十八ヶ瀬といわれており、このあたりは幾多の氾濫により繰り返し甚大な水害を受けておりましたが、先人の努力により治山治水対策がなされてからは、農林漁業や食品産業、工業を支えるおおらかな恵みとなって今日の黒部のまちに活力をそそいでいます。

今や黒部市は、「名水の里」と呼ばれ、あちこちから湧き出す地下水は「黒部川扇状地湧水郡」の名で全国名水百選（昭和60年・環境庁）などに選ばれております。



3千メートル級の山々と黒部川扇状地

〈黒部市における緑花推進〉

現在、花と緑の銀行黒部支店は、頭取10人・グリーンキーパー45人の方々を中心として地区の緑花活動を行っています。

活動内容としては、市内公共施設や学校への花苗配布と育成指導を基本に、地区花壇では前沢カンナロード／石田海岸花壇／若栗フヨウロードと、市の代表的な花の道があり、現在も活動中です。また、まちの中心地域である三日市地区や、海岸地域の生地地区においても、まちおこしの一貫として積極的に町内花壇の育成管理を行っておられます。

その他の恒例の行事としては、毎年春に開催される緑花イベント・花と緑ふれあいデー／小学校花壇コンクール／黒部支店活動推進会議などの活動を進めております。



前沢カンナロード 春の定植と夏の風景

〈新しい黒部市〉

今、黒部市は、転機を迎えようとしております。平成18年3月31日に予定されている「宇奈月町」との合併と、9年後に開業が予定されている北陸新幹線です。

北アルプスの高峰から里山・扇状地・日本海へとつながるダイナミックな自然環境を持つ県東部の玄関口、新市「黒部市」の誕生により、観光事業に対する期待はいやがおうにも高まります。

花と緑の銀行黒部支店としても、これまで各地で実施していた緑花活動を、今後宇奈月支店の方々と一つになり、自然を生かした景観づくり、花づくりを展開して行きたいと考えております。

黒部市を訪れる全ての人々を花と緑で迎え、再び訪れたいと思われるように、新市の将来像である「大自然のシンフォニー文化交流のまち黒部」のキャッチフレーズに恥じないよう、努力して参りたいと思います。

花づくり活動推進協議会の運営と活動の一端

花と緑の銀行富山支店

大沢野花と緑の活動推進協議会会長 **荒瀬和男**

◎活動推進協議会活動の実際

*地域内の頭取・グリーンキーパーが一体となり「花づくり活動」を進めます。それには、活動の共通理解を図る。より確かな花づくりの技能を身につける。これらの活動の過程で会員の資質や充実した会の活動が意欲が高まると信じています。

*地域住民・公共団体（地域内の小・中学校・保育所・幼稚園・街路など）に対して「花づくり」への啓蒙や援助活動を実践し、「花と緑のまちづくり」に貢献し、着実な日常化に努めます。

◎会の組織と運営は

【一人の活動よりグループの活動で】

当大沢野地域内の活動組織は、頭取5名グリーンキーパー97名の総数102名が登録されています。これらの会員が意欲的に活動出来るように、10地区に分散所属の編成をしました。1地区に10名内外のグループ編成をしました。所属地区内の花壇運営や公共団体の支援を進めています。

また、会の全体会は各地区のリーダーと会計系の代表者で構成され、活動計画・決算承認や活動評価、そして行政担当者と密接な連携を図るなど、協議会の活動内容がよりよく充実する努力を積み重ねています。

◎協議会の重視する花づくり活動の実例

実例1：運動公園花壇より

①土づくり【有機質に富んだ土づくりを】

花壇は2m×70mの長方形で前年秋の整地後、そして春の牛糞堆肥・燻炭・基肥（有機ブリケット）の土



への混合と深耕を入念に実施し、当日の灌水で土づくりが完成する。この土づくりの土を全員で触手することで、理想的な土づくりの状態を認識していた

だいた。

②グループの協働作業とアイデアを生かした花壇造成をめざして

地区別に区割りし、アイデアを生かしての植栽を行う。台付き古タイヤのポット・白妙菊・コキア・カンナの花苗3本ずつを、指定の場所に植え込む。その空間に準備された花苗を特性・色彩・草丈・間隔・植え込み深さ等を協議し、グループ内での協働作業で区割り花壇を完成する。

実例2：猿倉山展望台花壇の造成から

【地域の諸条件を生かしたシンボル花壇をめざして】

*環境を生かす

風の城タワーと三方の山々と神通川と富山平野の展望など

*立地条件を生かす

芝生広場、キャンプ場、バーベキュー設備、スキー場、階段状の花壇など立地条件を生かす花づくりを進める。

写真は4地区の協同作業で運営し、自然風花壇・立体的で変化のある花壇造成の表現化に努力した花壇の全貌です。



花の生育特性・色彩・草丈・強調方法等に配慮しながらの造成でした。

多数の訪問者に安らぎと癒し、さらに、花の美しさ・楽しさ・そして魅力を提供できるような花づくり活動を目指して日々研鑽しています。

とやまの花壇苗・鉢花⑦

ハボタン

富山県農林水産部技術推進課普及指導班
主任普及指導員 佐藤克美

1. ハボタンの特徴

ハボタンはヨーロッパの西、南部原産のアブラナ科の秋まき1年草です。キャベツと同種ですが、葉に色彩をもたせて観賞用に改良されたものがハボタンです。以前より門松の寄せ植えに使う等の「迎春もの」として需要がありました。近年は鮮やかなカラーリーフと持ちの良さが評価され、花壇苗、鉢花、寄せ植え、切り花等で広く利用され、冬を彩る花として欠かせない存在となっています。

ハボタンの葉色には白色、赤紫色、白に中心が桃色といったものがあります。



葉の形もキャベツに似た「東京丸葉系」、「大阪丸葉系」、葉がパセリのように縮れた「名古屋ちりめん系」、葉に切れ込みが入った「切れ葉系」があります。一般に「丸葉系」、「切り葉系」は寒さに強く、「ちりめん系」は寒さにやや弱いようです。

2. 苗生産のポイント

10月中旬以降の寒さにあたると中心部から白や赤紫に色が着き、外側の葉の緑とのコントラストが鮮やかになっていきます。本県は暖地より早く気温が下がることから、色鮮やかなハボタンを生産することができます。

着色が始まる時期までに、しっかり株づくりをする必要があるため、は種は7月下旬～8月上旬に行います。暑い中での育苗となるため、遮光資材を駆使して気温を下げ、風通しを良くして管理されることがポイントです。また、夏から秋にかけてアオムシ、コナガ、ヨトウムシといった害虫が発生して葉

を食害してしまうため、防虫ネットで侵入を防いだり、防除を徹底する必要があります。

品種の選定、鉢上げ、水管理等の肥培管理、成長調整剤を駆使して、大きなものから小さいものまで色々なサイズのハボタン苗が生産、出荷されています。

3. ハボタンを楽しむための管理

苗を購入する場合は、茎が太く間伸びしていない締まった株で、下葉が枯れ上がっていないもの、葉に病害虫がついていないものを選びましょう。

苗は株同士が接するように位置を決めて株の高さを揃え、根鉢をくずさないようにして植え付けます。

花壇に植える場合は日当たりと排水のよい場所に植えます。鉢植えや寄せ植えの場合は、日当たりの良い場所で管理します。寒さに強く雪の下でも十分に越冬しますが、水はけが悪いと融雪時に湿害が発生することもあるので、排水に努めます。春には抽台して菜の花のような小さい黄色い花が咲きます。花も楽しんでみましょう。



葉ボタン圃場

平成17年度各種コンク

第15回全国花のまちづくりコンクール

団体名 小杉花作り同好会 (会長 南井與蔵)

受賞内容 全国花のまちづくり推進協議会長賞受賞 (団体部門)

平成17年度富山県一般花壇コンクール 最優秀賞受賞



小杉花作り同好会メンバー

平成17年度富山県花と緑のコンクール最優秀賞作品

花と緑の普及用ポスター原画の部

砺波市立庄川中学校

1年 北田 淳



花と緑の普及用標語の部

富山市立山室小学校

1年 赤尾太志朗

はなはみあ
ぼくらはごはん
いっしょだね

学校花壇の部

氷見市立一劬小学校



クール入賞作品の紹介

第42回全国花いっぱいコンクール

団体名 氷見市立海峰小学校

受賞内容 総務大臣賞受賞

平成17年度富山県学校花壇コンクール 優秀賞受賞

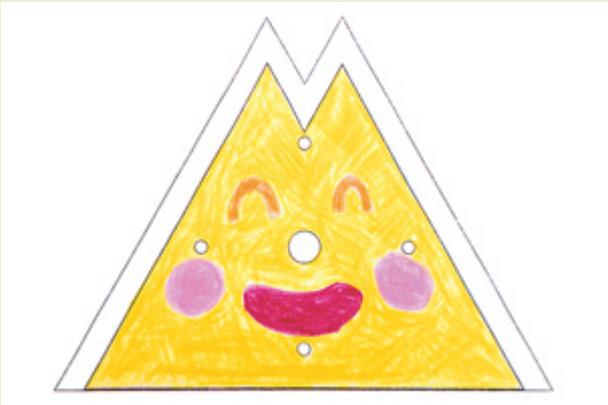


花壇の前で楽しく食事会

花時計用花壇デザインの一部

富山市立倉垣小学校

6年 布目翔子



幼稚園・保育所花壇の一部

砺波市立 北部こども園



花の道の部

南砺市桐の木花と緑の活動推進協議会



個人花壇の一部

砺波市 宮野裕子



＝ 入賞おめでとうございます。 ＝

楽しさと魅力ある花壇作りをめざして

花と緑の銀行射水支店

小杉花作り同好会会長 **南井 與蔵**

私達、花と緑を愛する小杉花作り同好会は、当初、「花と緑の銀行」の行事を通じて旧小杉町内各地で花壇作り活動を展開していました。各地に分散している活動は、どれだけ素晴らしい花壇が出来ても、多くの人達に鑑賞していただける機会が少なく、花壇作りのやりがい十分得られないことでした。そんなことから多くの方々に花壇としての魅力と楽しさと安らぎを感じていただける条件を備え、会員全員が活動出来る花壇を探していました。

そんな中、旧小杉町庁舎周辺が歌の森運動公園として整備されていて、多目的グラウンドのコンクリート階段観覧席の後部の空き地（長さ約85m広さ約290㎡）が候補になり、会員で検討した結果、この場所は、日頃、散歩やジョギング等で多くの住民が活用するとともに休息用のベンチも各所に配置されていて、花壇を設置した効果が高いと考えられ、私達同好会の花壇作りの活動拠点とすることが決まりました。

◎まずは土作りから

ここは、元々グラウンドの観覧席の後ろにあたり、芝と日陰用の樹木を植える予定であったことから、石やコンクリート片が多く、花壇づくりを始めるには土壤改良から始める必要がありました。会員の方々自作の腐葉土、燻炭、培養土などを提供いただき3年後にはどうか花壇らしく育成出来るまでの土壤に改良できました。

◎自然と調和した花壇づくり

当初の花壇作りは、各種の美しい花の色合いを中心として、デザイン、造形、配色等による花壇を造成していましたが、数年経過すると花ばかりにとらわれ、単調になり毎年変化を出すのに苦労がありました。

その後「花と緑の銀行」の研修や視察を通じて教わった、花ばかりにとらわれず、葉の緑色も活かし、植物の持つ自然の色を取り入れて、その中に花の美

しさを引き立てるような自然に調和した花壇作りに心がけ、花壇全体の色の美しさを表現することに苦心しました。特に、花壇後方部には、変わった色合いの樹木を何種か配置し、その間に茶系のすすき（パープルファンテングラス）、綿の出来るフーセントウワタ、中央部には、実の色付けに変化のある各種ナンバ、鮮やかな葉のコタキナバル、黄色で重なり合うパキスタシス、コリウス等変形葉のもの他、各種ハーブ、ホオズキまでも入れてみました。これら花壇全体で一年草、宿根草、花木、ハーブの他球根、野菜系（パセリなど）、緑樹など120種2200本以上の植物を、成長した状態を想定しながら植え付け配分しています。大きく成長するにつれ、所により混色の色合いが自然風でバランスがとれ、種類の仕切り部分が混色で盛り上がるような美しさを見せるなど、我々も全く予想外の楽しい花壇ができ上がり、会員一同花壇作りの感動を味わっています。

◎全国花のまちづくりコンクールに入賞して

これらの幾多の活動を継続していて、平成12年、13年には県コンクール優良賞、14年に優秀賞15年に最優秀賞、16年には県の最優秀賞とともに全国花いっぱいコンクール、あしたの日本を作る協会毎日新聞社賞を、17年度には全国花のまちづくりコンクールに優秀賞（推進協議会長賞）を受賞し、素晴らしいクリスタルのトロフィを戴きました。

これらの受賞は、会員の皆さんの苦勞と努力の成果が実ったもので、全員で喜びを分かち合いました。

昨年からは、県内各地からの視察者も多くなり、お互いに花壇作りについての意見交換やお褒めの言葉を戴き大きな励みとなっています。今後も変化に富んだ楽しさと魅力ある花壇になるよう研究し、いつまでも皆さんに愛され、交流と憩いの場となるよう努力して参りたいと思います。

※小杉花作り同好会の花壇写真は写真コーナー（6～7ページ）に掲載してあります。

街路樹や庭木を守る－ナラ類の集団枯損被害の紹介－

富山県林業技術センター林業試験場
中山間地域資源課長 **西村 正史**

昨年、県内の里山林では初夏から秋にかけて季節はずれの「紅葉」が出現したことは、新聞紙上で大々的に報道されましたので、ご記憶の方が多くかと思えます。この「紅葉」は、カシノナガキクイムシという5mm程度の小さな虫によって引き起こされます。「紅葉」した樹木（主にミズナラとコナラ）は秋の本来の紅葉とは異なり枯れてしまいますので、里山林の景観が著しく低下し、将来的には国土保全機能等の低下などが心配されています。この「紅葉」は、主に日本海側の地域で多発しており、ナラ類の集団枯損と呼ばれています。本県では2002年7月に標高350m付近に位置する南砺市（旧福光町）才川七の広葉樹林内で初めて確認されました。昨年には、被害程度は異なるものの、県下のほぼ全域に蔓延したことが確認されています。ナラ類だけでなくカシ類にも被害が発生しますので、平野部などの公園、寺社の境内などでも、時ならぬ「紅葉」が出現すると予測されます。

そこで、今回はこのような「紅葉」を引き起こして枯れていく被害発生仕組み、被害の確認方法、防除法などを紹介します。

被害発生の仕組み

カシノナガキクイムシは養菌性キクイムシと云って、樹木に穿入しても材を加害することはなく、自ら持ち込んだ菌を栽培して、その菌を食べて生活すると云う特徴を持っています。ところが、残念なことにはこの菌の仲間の中にミズナラやコナラの「紅葉」を引き起こす原因となる菌が含まれているのです。この菌は、カシノナガキクイムシが穿入した坑道内で繁殖し周囲の組織に拡大して、水の通り道である導管を破壊します。幹周囲の導管が破壊されると、水が上がりなくなり、樹冠全体が萎凋し始め、その後赤くなって枯れます。カシノナガキクイムシの加

害を受けたからと云って、すべての木が枯れるわけではありません。ミズナラは半分程度が、コナラは1割程度が、それぞれ枯れることが知られています。

被害の確認方法

初夏から秋にかけて、里山林で季節はずれの「紅葉」が出現した場合には、「紅葉」した立木に近づき、それがミズナラであるかコナラであるかを見極めます。そうであれば、さらに近づいて、根元付近を観察します。幹の表面や根元付近の地面上にうどん粉状の白あるいは少し褐色がかかった粉があり（写真）、しかも2mm程度の小さな穴が沢山あれば、ナラ類の集団枯損であると判断できます。

防除法

マツクイムシの防除法であるNCS剤を用いた薫蒸方法が有効ですが、労力がかかるという欠点があります。現在、より簡易な方法として、フェロモンを活用してカシノナガキクイムシを一網打尽に捕殺しようとする防除法の開発が進められています。



被害を受けたミズナラ

この人あり

花壇造りの足跡

高岡支店山王校下頭取 吉田俊雄



昭和60年5月にグリーンキーパーを拝命した。”いつでもどこかに花の咲いている”地区作りが任務なのだを知った。それには花苗を植える場所が

必要である。あれこれと思索をした私は、人に頼る先に自分が花壇を造ってみようと思いついた。

地区のほぼ中央に2年前新築された幼稚園があった。その前庭はまだ山土がむき出しのままであった。早速、先生方をお願いして花壇を造らせてもらうことにした。コンクリートブロックと山砂を用意してもらい、日曜日に道具持参で出かけ、1日かかりで5m×1mの長方形花壇を2個造った。次の日曜日は堆肥・化学肥料・花苗を持って行き、用土を作り花苗を植えて、花壇はきれいに仕上がった。

翌朝、園へお礼に行くと「今朝来て見たらきれいなお花畑があるので、子ども達も大喜びでした。」と、先にお願ひに行った時はあまり乗り気でなかった先生方も大変喜んでもらった。その後の水やりは先生方、追肥・切り戻し等は私が担当で60年は暮れた。61年には前年の手順で7m×1mの花壇を追加。62年の花苗植栽には先生方もアイデアと労力で参加し、町の花壇コンクールでは優良賞を受賞した。この年

の秋過ぎに、町教委から園長職（非常勤）の依頼があり“しばらくなら”とお受けした。

63年以降は園長の職務と併せて環境を考える。花苗の植え付けに年長組園児も参加。園舎に沿って長方形1個造成（日陰）、インパチェンスを植栽。町のコンクールは最優秀賞受賞。その後も年々工夫をして平成4年まで5年連続の最優秀賞独占となったので、コンクールは以後参加を見合わせた。その間、徐々に地区の自治会にも花壇が出来てきた。

そして、前頭取のご逝去を機に後任の頭取として指名された。平成5年、園近くの道路工事から残土2台を園庭に積み上げてもらい、上部に小さい花木、斜面・すそ野に球根類・多年草・山野草等を植えて、年々の植栽の負担軽減を図った。（自然風の走りかも。）花壇の管理と併行して植栽にも配慮し、花を見る木、実のなる木、紅葉する木等70本余を植樹。

“しばらく”とお受けした園長職も10年を過ぎ、幼稚園の環境もかなり整ったので平成10年度で園を辞した。省れば花と緑だけの園長で終わった。

しかし、お陰で山王地区8自治会の花壇は15個を数え、町のコンクールでも度々受賞した。内2花壇は自然風、女性GK2人が二つのグループで管理しています。

草花の害虫とその防除法

7. ナメクジ類

富山県立大学非常勤講師 成瀬博行



ナメクジ類は、もちろん昆虫ではありませんが、花壇や鉢植えの花を加害することから、広い意味の害虫といえます。

ナメクジ類は、タコ、イカ、カイと同じ軟体動物に属しています。見かけは非常に単純ですが、無脊椎動物では、昆虫などと並んで最も進化したグループです。ほとんどの軟体動物は、水の中で生活しますが、ナメクジは、カタツムリ、キセルガイとともに陸上で生息する巻貝（腹足類）の仲間であり、殻をなくしたカタツムリといっているでしょう。外套膜を使って空気呼吸をします。

ナメクジ類には、いくつかの種類があり、人家の周辺や農地などでは、ナメクジやコウラナメクジなどがよく見られますが、近年では特にヨーロッパ原産の侵入種であるチャコウラナメクジ（写真）が増えているといわれています。

いずれも湿った場所を好み、夜行性で昼間は植木鉢の下などにかくれ、夜になると活動します。生殖

は、雌雄同体で、♀と♂の機能を同時に持つところが変わっていますが、一生に300ほどの卵を産みます。

ナメクジ類は、多くの農作物を加害しますが、野菜ではピーマン、ナス、イチゴなどの果実に穴をあけたり、かじったりします。キャベツやハクサイなど葉もの野菜も被害を受けます。

花きでは、多くの種類で苗や葉が食害されますが、特に花をかじられると大きく美観を損ないます。また直接的な被害はなくても、歩くことにより光沢のある跡が残るので、不愉快です。童謡に歌われるカタツムリと異なり、ヌルツとした姿自体も嫌われる存在です。

防除については、落ち葉の中や植木鉢の裏などを観察し、見つけ次第取り除いて下さい。薬剤を使う場合には、メタアルデヒド剤で誘引して殺す方法などがあります。

そのほか、塩をかけてとかす方法が知られていますが、塩の量が少ないと生き返ることがあるそうです。また、ビールが好きで、飲み残しを使っておびきよせ、一網打尽にするとか、金属の銅が苦手なことを利用するなどの情報もあります。

お知らせ

2月～3月の行事・イベント案内

☆第16回花と緑のフェスティバルの開催について

「花と緑といのちが輝く富山」を目標として花と緑の県づくりを推進する一環として平成18年3月3日(金)から5日(日)までの3日間花と緑のフェスティバルを下記により開催します。

今回は会場を富山市婦中町地内にある商業施設「ファボーレ」店内で開催します。買い物に訪れた多数のお客さんが気軽に見学されることを期待しています。

*開催日時 平成18年3月3日(金)～5日(日)10:00～17:00

*開催場所 フェーチャーシティ「ファボーレ」(富山市婦中町下轡田165-1)

*キャチフレーズ「花と緑がいっぱい、もう春ですね」

*内 容

[ファボーレホール]	・切り花、鉢花展示、品評会	・ガーデニング教室
・フラワーデザインコンテスト	[正面玄関、店内通路]	・フラワーアレンジメント教室
・盆栽・おもと展示	・コンテナガーデン	・花のオークション
・チューリップ庭園	・生け花大作展	[ときめきの広場]
・ドライアートフラワー展示	・流派別生け花作品展	・ミニモデル庭園
・フラワーボトル展示	[太陽の広場]	[はなの道]
・押し花作品展	・こども木工教室	・パネル展示

☆第34回欄まつり大会 (富山県中央植物園サンライトホール)

県内外の蘭の愛好家が丹精込めて栽培した洋ランや東洋ラン約350鉢を展示します。今回はパフィオペデイラムの育種家として有名な水戸徳川家第十四代当主徳川圀斉氏のコレクションの一部を特別展示します。栽培講習会と即売会もあります。

*開催日時 平成18年3月3日(金)～5日(日)9:00～17:00

*入園料 600円

☆冬も楽しい森の中探検 (頼成の森、森林科学館)

森の中を(雪が積もっていたらかんじきを履き)散策して、動物・昆虫・植物の自然観察を通し新しい発見をする。お昼にキノコ汁を楽しむ。

*開催日時 平成18年2月12日(日)9:30～13:00

*対象等 小学生以上 定員30名 参加費 200円

*参加申込 準備の都合により3日前までに電話・FAXで森林科学館へ申込み下さい。

頼成の森森林科学館 TEL 0763(37)1540 FAX 0763(37)1450

☆早春を彩る花祭り2006「スイセンの魅力」(富山県花総合センター)

約180種のスイセンを使って一足早い春を演出します。体験コーナーでは春のプランターを作ります。

*開催日時 平成18年2月10日(金)～12日(日)9:00～16:30

*体験コーナー 毎日午前10時と14時の2回計4回 参加申込みは、各回開始30分前まで

*材料費 約1,500円程度 定員先着10名様まで

表紙・裏表紙写真撮影：幡谷広司(砺波市)

増山杉：砺波市増山を中心に植栽され、材質は非常に優れており、建具の材料として造林された。

また、抜き切りで収穫したことから、増山城址周辺では、珍しい複層林が見られる。



医王山と麦畑／南砺市

花と緑の銀行だより 158号

発行日 平成18年1月

編集発行 財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org>

富山県花総合センター

〒939-1383 富山県砺波市高道46-3

TEL 0763-32-1187

FAX 0763-32-1219

ホームページアドレス <http://WWW.pref.toyama.jp/branches/1692/1692.htm>

県民公園頼成の森

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjounomori/>

